

アメリカミシガン州駐在員便り

2012/6/22 駐在員 瀧 健太郎

【日本家庭健康プログラム】

アナーバー市の郊外ドミノズ・ファーマーに、家庭医療を専門とするミシガン大学のサテライトクリニックがあります。その中には[日本家庭健康プログラム](#)の診療所もあり、ここでは、家庭医の診察を日本語で受けることができます。家庭医とは、患者の年齢・性別・疾患などに関わらず、地域住民の健康を支える医師のことで、アメリカでは一般的です。どこか調子が悪い時に一時的な診察・治療をし、必要に応じて適切な専門医にバトンタッチ、あるいは、専門医の治療を行ったのちに地域でその後のケアをする役割の医師です。

日本人がアメリカで病状を説明するのはとても大変ですから、日本語のできる4人の家庭医がこのプログラムにいることは、ミシガン州に住む日本人にとってとても心強いことです。他州からも多くの日本人がこのクリニックを訪れており、当クリニック来院者のおよそ3分の1が日本人なのだそうです。

ここでは、マイク・フェターズ准教授が中心となって、家庭医の養成を積極的に進めておられます。多くの日本人留学生も直接患者さんと触れ合いながら実践的な研修を受けています。また、マイク・フェターズ准教授は滋賀県とも縁が深く、2003年から滋賀医科大で講義を持ち2007年から客員教授をされています。また、静岡県と連携して[家庭医養成プログラム](#)を進めるなど、日本での家庭医の普及にも貢献されています。

「専門医は都市に出ようとするが家庭医は地域に残る。だから、滋賀県生まれの家庭医が数多く輩出されれば、県内の医師不足もきっと解消するはず」と先生は言います。ここでの取り組みは、滋賀県で「在宅看取り」を進めるための参考にもなりそうです。

